

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	・地域住民が地域の課題を把握し、自らが策定した地域福祉計画の「共助」を中心とした活動を検討・実施して地域課題の解決に努めた。課題解決にあたっては、あんしんケアセンター・社協区事務所・行政も相談支援・活動支援を行い協力することができた。
今後の課題	・新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流 ・エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民の外出困難、ひきこもり ・支え合い活動等の担い手不足 ・活動拠点の確保 ・コロナ禍における新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した活動等の検討

令和3年度の取組の方向性	・計画の継続性と新型コロナウイルス感染拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいきたい。
--------------	---

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	9	S 1	幸町2丁目地区部会エリアでは、幸町2丁目地区部会が実施する支え合い活動「幸町2丁目地区 支え合いの会」が準備期間を経て令和2年6月に発足した。幕張西地区部会エリアの「見守り活動」では、新たに1自治会で見守り活動を開始した(13/15自治会)。稲毛海岸地区部会エリア・打瀬地区部会エリアでは、民生委員の協力を得ながら「あんしんカード」の活用を進めている。
		A 7	
		B 1	
		C 0	
2 高齢者を支える仕組みづくり	12	S 1	幸町一丁目地区部会エリアでは、地域支え合い型通所支援「幸町一丁目 健康プラザ」を令和2年10月から活動開始し、地区部会主催のサロンと併せて高齢者の交流の場の拡大を推進している。
		A 6	
		B 5	
		C 0	
3 障害者を支える仕組みづくり	6	S 0	幸町2丁目地区部会エリアでは、地域カフェ(カフェさいわい)・体操教室・3サロン合同ボッチャ交流会を実施し、障害に関する理解を深めながら他のサロン参加者との交流を図り、サロン参加への呼びかけも行った。
		A 5	
		B 1	
		C 0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	6	S 0	高洲高浜地区部会エリアでは、地区部会と高洲CCとの共催で「地域支え合い講座」認知症講座を開催した。また、地域での子どもと大人・高齢者との世代間交流の場として「こどもフェスタ」「ネイチャーゲーム」を今後も引き続き実施していきたい。
		A 4	
		B 2	
		C 0	
5 健康づくり	2	S 1	磯辺地区部会エリアでは、健康づくり教室を自治会集会所20ヶ所で実施し地域の子どもから高齢者まで老若男女が参加した。また、スポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会(バドミントン・卓球・野球等)を実施した。
		A 0	
		B 1	
		C 0	
6 防犯・防災に対する取組み	0	S 0	
		A 0	
		B 0	
		C 0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	S 0	磯辺地区部会エリアでは、33地区連協27自治会中10自治会が「支え合い活動」をスタートさせている。現在も役員会で検討中の自治会や実施すべきを検討している自治会に対して説明を行い、地域住民による支え合い活動の実施に向けて今後も粘り強く理解を求めていく。
		A 2	
		B 2	
		C 0	
8 福祉教育・啓発	3	S 1	幸町一丁目地区部会エリアでは、新たな担い手の発掘と住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的に「ボランティア講座」を4回開催している。なお、当該講座では高齢者対象のみならず、児童母子対象の講座も盛り込んでいる。磯辺地区部会エリアでは、地域内小学校児童・中学校生徒と、地域の高齢者・障害者との交流を図り、互いを理解できるような福祉の心の醸成を培う活動を進めている。
		A 2	
		B 0	
		C 0	
9 地域のつながりづくり	9	S 0	稲毛海岸地区部会エリアにおいて、草刈りや自治会館付近での声かけを実施したり、電話でサロンへの参加を呼びかけた。また、稲毛海岸地区部会が主催する「ふれあい食事サービス」の後に稲毛公民館とタイアップした市外の「民謡・三味線演奏サークル」を招いて鑑賞しながら交流を深め、社協地区部会活動の周知・普及にも努めた。打瀬地区部会エリアでは、東京オリンピック・パラリンピックの開催地としてのおもてなしの一環(折鶴を選手村に贈呈)として公民館と共催してサロンで製作した。
		A 6	
		B 3	
		C 0	
10 相談支援体制と情報提供の充実	1	S 0	真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会ホームページの活用・広報紙・チラシ等の媒体を活用して多くの関係団体の情報が掲載され、さらに真砂地区部会が発行する地区部会だより「真砂ふれあいだより」を補完する役割も果たし、地域住民に広く情報提供をすることができた。
		A 1	
		B 0	
		C 0	
合計	52	S 4 A 33 B 15 C 0	

◆コロナ禍における好事例等

※ 記載については、地域福祉専門分科会に報告する1～2事例をご紹介します。
(「コロナ禍における地域福祉活動について」に記載の事例等を参考としつつ、枠内に収まらない場合は、A3裏面1枚の範囲で追加いただいて構いません。)

幸町一丁目地区部会 ふれあい食事サービス「テイクアウト方式」の開始

★幸町一丁目地区部会では、コロナ禍になる前より実施していた「ふれあい食事サービス」を、コロナ禍(緊急事態宣言解除中)でも実施できるよう「会食形式」から「テイクアウト方式」に開催方法を変更して実施。会食形式でなくても、利用者(地域の65歳以上の高齢者)が食事(お弁当)を受け取る会場まで来ることにより、閉じこもりの防止と安否確認(見守り)ができた。

<紹介記事調>

幸町一丁目地区部会では、コロナ禍になる前より「ふれあい食事サービス」として障害者就労移行支援施設で調理されたお弁当(昼食)を地区の集会所(幸町1丁目 千葉ガーデンタウン管理センター内 他)にて地域の65歳以上の高齢者を対象に(希望者)食事会を実施(会食形式)していました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため楽しみにしていた食事会は中止を余儀なくされました。地区部会の主催者の方たちは、高齢者の方たちが楽しみにしている食事会を何とか実施しようと検討を重ねた結果調理されたお弁当(昼食)を希望者(地域の65歳以上の高齢者)が会場まで取りに来る「テイクアウト方式」という方法で再開させました。利用者が食事(お弁当)を受け取る会場まで取りに来ることにより、閉じこもりの防止と安否確認(見守り)もできるようになりました。

幕張西地区部会 ふれあい・子育てサロン「ひよこの会」子育て関連情報の貼り出し(掲示)の実施

★幕張西地区部会では、コロナ禍により新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から月に1回開催してきた子育てサロンの開催は自粛し中止となった。しかし、コロナ禍であっても子育て中のお母さん等保護者の方が子育てに関する情報を必要としていることから、これまで会場としていた幕張西公民館の協力を得て正面入口の玄関の窓のところに離乳食のレシピや行政からの子育てに関する情報等を紙で貼り出す活動を実施した。

<紹介記事調>

幕張西地区部会では、地区内の就学前の乳幼児とその保護者を対象とした、友達づくりと育児に関する情報交換を目的とした子育てサロンを実施しています。昨年度はコロナ禍の影響により開催できませんでしたが、コロナ禍であっても子育て中のお母さん等保護者の方にとっては育児に不安や分からないこともあり、様々な情報が欲しいところです。これまで月に1回開催してきた当該子育てサロンでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止を余儀なくされました。このようなことから、子育て中のお母さん等保護者の方に子育てに関する情報だけでも提供しようと、これまで会場としていた幕張西公民館の協力を得て正面入口の玄関の窓のところに離乳食のレシピや行政からの子育てに関する情報等を紙で貼り出す活動を実施してみました。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4子ども子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成 状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
稲毛海岸地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,752人 3,685世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 18.3% 【地域の特徴】 地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	顔見知りの関係を構築	昨年に引き続き、稲浜公民館とのタイアップ事業による住民交流を促進する企画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による自粛で実施できなかった。緊急事態宣言解除後にふれあい食事サービスを「会食」から「配食」に切り替えることの検討を行ったが、コロナの状況が落ち着かずリスクが高いことから事業再開は延期し、終息後の再開に備えることとした。各町内自治会単位で、新しい生活様式に合わせてコロナ禍でも実施できるようガイドラインを遵守し感染対策を取った「気にかける」見守り的な活動について実施している自治会もある。	A	【総括】 ・概ね当初の取組目標を達成しているものの、自治会単位での見守り活動については浸透できていない。 【課題】 ・1丁目の稲毛団地、3丁目のUR団地、4丁目の戸建てエリアは古くからの住民が多く高齢化が進んでいるが、一方で5丁目は大規模な住宅開発により子育て世代が増している状況である。このため、新旧住民の融合、子育て世代と高齢世帯の交流に課題がある。 ・稲毛海岸エリア全域(自治会ごと)で見守りネットワークの構築を目指しているが、一部の自治会にとどまっている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	4自治会での見守り活動の実施。	稲毛海岸3丁目団地において「稲三サポートの会」が発足し見守り活動実施した。ほか3自治会での実施を目指したが、新型コロナウイルス感染症拡大により、活動実施までには至らなかった。他方、以前全戸に配布した「安心カード」が今日でも更新しながら活用され、自治会単位で実施されている見守り活動においても自然的に支え合い活動に発展してきており「ちょこっとボランティア」等として活動が始まっている。	B		
	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	顔見知りの関係を構築	地域カフェ(カフェさいわい)、体操教室、3サロン合同ポッチャ交流会を実施し、他のサロン参加者との交流を深めたり、サロン参加への呼びかけを行った。最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催することができず、開催場所の変更等の検討を重ねるまでに留まった。	A		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	美浜区安心カード等の説明や緊急通報装置の利用促進	幸町2丁目地区部会主体の幸町2丁目地区 支え合いの会・UR幸町団地の生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町等と、見守り活動(安否確認)についての周知活動等について連携を図り住民への周知活動も行った。	A		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	2丁目連携会議において、アンケートの結果により、各取り組みを具現化	支え合い活動実施に向けた地域住民ニーズアンケート調査の実施・集計・分析と作業部会・実行委員会での協議により、「幸町2丁目地区 支え合いの会」が6月に発足し、新型コロナウイルス感染防止に留意しながらゴミ出し支援等の活動を行い始めた。	S		
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2,5	認知症徘徊模擬訓練・継続実施	平成30年度に近隣中学校や近隣住民を対象に地域が連携して主体となって認知症徘徊模擬訓練を実施した。隔年での実施を予定していたが、最終年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため認知症徘徊模擬訓練は中止とした。	B		
幸町2丁目地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,455人 6,580世帯 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 29.5% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	認知症カフェ・設置	「しょうじゅ美浜」のサ高住においてカフェを開設した。認知症の方と限定することなく地域住民の多くの方が立ち寄れる交流の場として実施。最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため幸町2丁目地区部会主催の「ふれあいいきいきサロン」やしょうじゅ美浜が運営している「認知症カフェ」が活動自粛となり開催できず、活動再開のための検討までに留まった。	A		
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域の医療機関との連携・連携体制の確立	平成30年度は幸町2丁目連携ネットワーク会議において、幸町団地歯科クリニックが参加した。最終年度はコロナ禍により連携会議は中止となったものの感染拡大防止に留意しながら、あんしんケアセンター幸町・近隣医療機関等と連携しながら地域住民のためのケア体制整備のため、関係機関との情報共有に努めた。	B		
	⑱ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域の医療機関との連携・連携体制の確立	平成30年度は幸町2丁目連携ネットワーク会議において、幸町団地歯科クリニックが参加した。最終年度はコロナ禍により連携会議は中止となったものの感染拡大防止に留意しながら、あんしんケアセンター幸町・近隣医療機関等と連携しながら地域住民のためのケア体制整備のため、関係機関との情報共有に努めた。	B		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組み テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成 状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
幸町一丁目地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,621人 3,941世帯 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 25.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	今以上に、各サロン間で交流し、得意な分野を提案し、お互いの参加者を増やす。	地域運営委員会(36地区連協・603地区民児協)が主体となり「幸町一丁目健康プラザ」として10月より月3回、「地域支え合い型通所支援事業」を開始。緊急事態宣言発出中を除き新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら実施している。 ※第1～第3月曜日	A	【総括】 ・概ね当初の取組目標は達成している。コロナ禍における新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮した新しい方式で取組みを行った。 【課題】 ・地域の活動拠点として、地域住民の交流の場として活用していた「幸町1丁目ふれあい交流館」が令和2年度に廃止となったため、新たな活動拠点の確保が必要となっている。 ・地域包括ケアシステム構築に係わる地域の役割や地域住民の参加(担い手)について協議・検討を進める必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	ふれあい食事会実施会場 ・主会場 1か所 ・サテライト会場 3か所	主会場の他に、サテライト会場を2会場に増設し、主会場まで来るのが難しい人を対象に募集し、食事会開始前にはシニアリーダー体操も実施した。 最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に関するガイドライン等(注意事項)に留意しながら、ふれあい食事会の安否確認・交流の場としての重要性を鑑み、緊急事態宣言解除後に地区部会主催のふれあい食事サービスを「会食」から「配食(テイクアウト方式)」に切り替え実施した。	A		
	②① 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携したボランティア講座の実施	平成30年度当初より「新たな担い手の発掘」と「住民にできるだけ外出の機会を提供」することを目的にボランティア講座を4回開催している。なお、高齢者対象のみならず、児童母子対象の講座も盛り込んでいる。 最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため講座の開催は中止とした。	A		
	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	全ての地域でのサロン開催	定期的なサロン開催には至らなかったが、地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」を実施した。また、「こどもフェスタ」や「ネイチャーゲーム」を引き続き開催していく。 最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためサロンの新規開設を計画どおりに開設させることはできなかった。しかし、コロナ禍でも開催できるよう、ガイドラインを遵守し感染対策を取った新しいサロンの形態について検討し実施した。	B		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	認知症サポーター養成講座・開催	平成31年度に地区部会と高洲CCの共催による「認知症講座」を実施した。最終年度はコロナ禍で講座を実施するための検討は行ったが、人が集まることの感染リスクを考慮して見送りとした。あんしんケアセンター等から認知症等についての情報提供があれば回覧・ポスティング等により周知を行い、つながりを保つよう心掛けている。	A		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	“孤立死ゼロ”に向けた仕組みの確立	令和元年11月に介護相談室隣接のコンビニ(ケアローソン)がオープンした。同施設内にある地域交流スペースの有効活用等について、今後、当該コンビニを地区の交流の場として活用できるよう、協議を実施。生活支援Co・あんしんケアセンター・民児協・UR等とも連携して関わっていきたい。	A		
高洲・高浜地区部会エリア 【人口・世帯数】 39,035人 19,013世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 30.0% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	②② ボランティア人材の育成	7	地域資源等を活用したボランティア・福祉教育に関する講座を継続して実施し、地区部会活動に協力できるボランティアの養成を目指す。	地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」「防災講座」を実施し、認知症サポーターの養成や助け合い活動担い手の必要性について周知を図った。	B	【総括】 ・概ね当初の取組目標を達成しているものの、コロナ禍のため新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により一部取組みが実施できなかった。 【課題】 ・エリアの大部分を集合住宅が主に占めており、高浜エリアでは市営住宅地区を中心に外国人住民が多く、高洲エリアではUR団地を中心に高齢世帯の割合が高い。このため、高浜エリアにおいては、自治会の加入や運営にも支障が出ている。高洲エリアにおいてはエレベーターのない団地の外出困難、認知症からの家賃未払いや引きこもり事案が進んでいる。 ・令和2年度、第29地区連協内において地域運営委員会が発足し、今後、各団体間の連携・協力体制の構築が課題となっている。 ・連携を図りながら相談・助言等の支援ができる体制(バックアップ)を構築していく必要がある。また、地域資源の活用について、引続き各自治会等と連携・調整する必要がある。 ・顔の見える近所づきあいの関係構築のため、様々な機会を活用し、イベント等への参加者を広く募る必要がある。 ・今後も継続して、「認知症サポーター養成講座」「地域資源を活用した高齢者向け講座」を開催し、認知症への理解・支援を得ていく必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	全ての地域でのサロン開催	定期的なサロン開催には至らなかったが、地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」を実施した。また、「こどもフェスタ」や「ネイチャーゲーム」を引き続き開催していく。 最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためサロンの新規開設を計画どおりに開設させることはできなかった。しかし、コロナ禍でも開催できるよう、ガイドラインを遵守し感染対策を取った新しいサロンの形態について検討し実施した。	B		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	認知症サポーター養成講座・開催	平成31年度に地区部会と高洲CCの共催による「認知症講座」を実施した。最終年度はコロナ禍で講座を実施するための検討は行ったが、人が集まることの感染リスクを考慮して見送りとした。あんしんケアセンター等から認知症等についての情報提供があれば回覧・ポスティング等により周知を行い、つながりを保つよう心掛けている。	A		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	“孤立死ゼロ”に向けた仕組みの確立	令和元年11月に介護相談室隣接のコンビニ(ケアローソン)がオープンした。同施設内にある地域交流スペースの有効活用等について、今後、当該コンビニを地区の交流の場として活用できるよう、協議を実施。生活支援Co・あんしんケアセンター・民児協・UR等とも連携して関わっていきたい。	A		
	②② ボランティア人材の育成	7	地域資源等を活用したボランティア・福祉教育に関する講座を継続して実施し、地区部会活動に協力できるボランティアの養成を目指す。	地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」「防災講座」を実施し、認知症サポーターの養成や助け合い活動担い手の必要性について周知を図った。	B		
	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	全ての地域でのサロン開催	定期的なサロン開催には至らなかったが、地区部会と高洲CCの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」を実施した。また、「こどもフェスタ」や「ネイチャーゲーム」を引き続き開催していく。 最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためサロンの新規開設を計画どおりに開設させることはできなかった。しかし、コロナ禍でも開催できるよう、ガイドラインを遵守し感染対策を取った新しいサロンの形態について検討し実施した。	B		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組テーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性			
幕張西地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	未実施となっている自治会へ新たに見守り活動を働きかけ(15/15自治会)	幕張西地区部会エリア内において15自治会のうち、13自治会が見守り活動を実施した。最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により各会議については開催自粛・延期となり、年1回の見守りCo定例会の開催に留まった。見守り活動から発展した支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきており、支え合い活動の立ち上げについても、今後社協・あんしんケアセンター・生活支援コーディネーター等と連携を図りながら進めていく予定である。	A	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標は達成している。コロナ禍における新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮した新しい方式で取組みを行った。 〔課題〕 ・新旧の住居が混在していることから高齢化率の差が起き、福祉活動への意識に対して差が生じ始めてきている。 ・県営団地の高齢化が顕著となっている。 ・見守り活動の未実施自治会への働きかけを引続き行っていく必要がある。 ・見守り活動がスタートした自治会やコーディネーター・協力員等の支援として、情報交換の機会を充実させる必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			
				⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9			集会所を活用したサロンの開設	B	
				⑫ ボランティア人材の育成	7			ボランティア活動について理解と関心を深める講座の継続的実施(年3回実施)	A	
				【人口・世帯数】						
				12,133人、4,837世帯						
				【町内自治会数】						
15町内自治会										
【高齢化率】										
19.8%										
【地域の特徴】										
区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。										
打瀬地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	継続して安心カードの普及に努める	これまで民生委員の協力により、安心カードが浸透してきた。最終年度は、安心カード普及の中心的役割を担っていた民生委員活動が、新型コロナウイルス感染拡大防止により、活動の自粛・高齢者実態調査の中止を余儀なくされ、安心カードの普及までには至らず、住民への周知までに留まった。	A	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標は達成している。コロナ禍における新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮しながらの取組みを行った。 〔課題〕 ・自治会によって地域活動への参画について意識差があるため、地域福祉活動の連携・広がり難しい状況にある。引続き、地域活動の必要性・参画について理解促進を図る必要がある。 ・若年層は他のエリアに比べ多い方だが、高齢者のいる世帯は日中独居高齢者となる世帯が多い。 ・マンションの大半がオートロック・二重ロック機能となっているため、民生委員・地域住民等による訪問(見守り・安否確認)が困難となり、高齢者の孤立が危惧される。 ・地域福祉活動を継続させるためには、担い手の確保が重要であり、現在のボランティアの中心的世代である団塊の世代の次の世代のボランティア確保に向けた具体的な方法を検討する必要がある。 ・本計画の重点取組項目について、地区部会が主体となる項目と、地域運営委員会が主体となる項目をすみ分けつつ、連携・協力していく必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			
				③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1			継続して啓発活動を行う	A	
				⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9			街区の集会所を拠点としたサロンの充実	A	
				【人口・世帯数】						
				25,643人、9,073世帯						
				【町内自治会数】						
24町内自治会										
【高齢化率】										
8.6%										
【地域の特徴】										
東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。中心部には図書館と公民館の複合施設である「ペイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ペイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。										
⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域運営委員会を中心に、関係団体が連携し、地域課題に取り組んでいく。	地域運営委員会定例会において、本計画について確認するとともに、関係団体が地域課題の共有を図った。最終年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により会議等を自粛したため実施することができなかった。	B						
⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	認知症の方・家族の方が気軽に参加できる居場所づくりを目指す	「打瀬地区部会」が認知症の家族会「そよかぜの会」を立ち上げた。最終年度「そよかぜの会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止に関するガイドライン等(注意事項)に留意しながら、10月より活動を再開し、年度内に3回実施した。	S						